

S4-3

過敏性腸症候群の病態と脳腸相関

○千葉俊美

岩手医科大学口腔医学講座関連医学分野

過敏性腸症候群（IBS）の病態には消化管運動機能異常、知覚過敏、精神心理的異常が関与していると言われている。われわれは、IBSを対象としてポリカルボフィルカルシウム3.6g/dayを1日3回毎食後に8週間経口投与し、投与前後の大腸通過時間、排便回数、便形状および腹部症状を検討したところ、投与後の大腸通過時間、便形状および腹部症状が投与前と比較して有意に改善し、大腸通過時間は便形状および排便回数と有意な相関を認め、便形状は排便回数と、腹部症状は大腸通過時間と有意な相関を認めたことから、大腸通過時間の改善がIBSの腹部症状を軽減すると考えた（Hepatogastroenterology 2005; 52: 1416-1420）。そこで、ポリカルボフィルカルシウム投与前後にSF-36質問表でQOLを評価したところ、SF-36のSF、VT、BPにおいて有意差なQOLの改善を認め、下痢型のSF、VTおよび便秘型のSF、RE、BP、VTにおいて有意なQOLの改善を認めた（消化器科 2003; 36: 452-458）。また、IBS患者のポリカルボフィル製剤投与で血清高感度CRP値が低下したことから、血清サイトカインの動態について検討したところ、投与後のIL-5が有意に低下し、特に便秘型のIL-5において有意な低下を認め、血清IL-5とIBSとの病態の関与を示唆した（Hepatogastroenterology 2011;58: 1527-1530）。さらに、 $\beta 3$ -adrenoceptor ($\beta 3$ -AR) およびCholinergic receptor muscarinic 3 (CHRM3) 遺伝子多型とIBSとの関係について検討したところ、 $\beta 3$ -AR遺伝子多型がIBSの疾患感受性に関連し、CHRM3遺伝子多型はIBSの病態期間に関与している可能性が示唆された（Hepatogastroenterology 2011;58: 1474-1478）。そして、内臓知覚と関係があるtransient receptor potential vanilloid-1 (TRPV1) 遺伝子多型 (rs222747) においてC/C型がIBSの年齢に関与している可能性が示唆された（J Gastroenterol Hepatol Res 2013;2: 576-580）。IBSはその原因として多因子が複雑に関与する疾患であり、今後のさらなる研究により客観的な診断およびより適切な治療へと結びつくことが期待される。